



発行者  
 一般社団法人 静岡県珠算協会  
 公益法人 全国珠算教育連盟静岡県支部  
 (静岡市駿河区八幡2丁目)

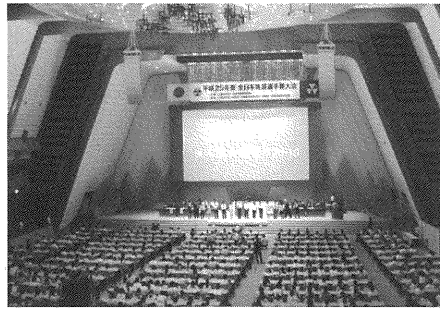
発行人 松村 茂夫  
 編集人 徳増 久  
 印刷所 井村 印

平成二十五年年度

# 全日本珠算選手権大会が京都で開催される

## 競技部長 渡辺尚明

### 宝ヶ池に集う五三三名の強者たち！



が熱戦を開始したこの日、京都宝ヶ池の国立京都国際会館では、全国各地から集まった、小学生一二八名、中学生一七五名、高校・一般二二〇名、計五二三名の参加のもと、第五七回全日本珠算選手権大会が開催された。

午前九時に開会が宣言され、続けて

八月八日、大阪の甲子園球場では第九五回全国高校野球選手権記念大会が開幕し、高校球児たちが

フラッシュ暗算競技が始まった。競技方法は三桁十五口を一題ごとに時間を短縮していく一算落として行われた。一問目三、五秒で始まり、六問目に二、一秒で十二名となり、ここまですが入賞となった。その後、百分の一秒刻みの攻防となり、決勝四問目に一、七九秒で優勝が決まった。優勝したのはギネス記録保持者で三連覇中の笹野健夫選手(岩手県)で、その後現在のギネス記録一、七〇秒の更新をかけた、一、六八秒の問題にチャレンジしたが、残念ながら不正解でギネス更新はならなかった。静岡県勢は惜しくも入賞を逃した。

続いて小学生の個人総合競技、選手が入替わって中学生以上の個人総合競技が行われた。中学生以上の個人総合は全種目終了後、交換審査が行われ、即座に結果発表となった。まず、一四八〇点以上の選手の挙手が求められ、十

二名の手が挙がった。その後、答案が回収され日本一の発表となるのだが、一五〇〇点満点が二名のため同点決勝となった。土屋宏明選手(宮城)と堀内祥加選手(千葉)による同点決勝は圧倒的な速さと正確性で土屋選手が三年ぶり六度目のそろばん日本一の栄冠に輝いた。土屋選手は東日本大震災の影響により、一昨年、昨年とこの大会に参加できなかったため、この日本一はひとしおの思いがあつたようである。

昼食休憩を挟んで、小学生そろばん日本一の発表が行われた。こちらは一四七〇点の高得点で、金本大夢選手(奈良)が小学生そろばん日本一となった。この金本選手は平成十一年に私が読上委員を務めさせていた、いた年にそろばん日本一に輝いた金本和祐選手の御息で、今後親子二代のそろばん日本一が期待される。

続いて行われた読上暗算競技は二問目の五桁から一六桁の加算を土屋選手が正解し、個人総合に続いて二冠となった。その後、五桁から十二桁の加減算まで、五問が読上げられ八名が正解し、ここまでの九名が入賞となったが、静岡県県勢の入賞はなかった。

選手達と読み手の真剣勝負と言われる読上算競技では、ここ十年で九名の優勝者が出ていたというほど、実力が伯仲しており、誰が優勝してもおかしくない状況であった。そんな中一問目

の七桁から十六桁の加減算を見事正解し、伊藤由夏選手(広島)が混戦を制し、四度目の優勝を奪った。その後同じ桁の問題が四問読上げられ、計十三名が正解し入賞となったが、残念ながら県勢の入賞はなかった。

最後に行われた都道府県対抗競技は、各チーム小学生・中学生・高校一般の各一名で構成する団体戦で、三チームごとのトーナメント戦であるため、組み合わせが結果を大きく左右すると言われる。静岡県代表は、小学生の松本康佑選手、中学生の鐵紀花選手、一般の西尾貞子選手の三名が、第二回戦(第一回戦は抽選で八チームのみ)で、兵庫県、岐阜県と戦った。この競技は、速さと正確性が要求される競技で、乗算、除算、見取算のうち事前に決められた種目を五題計算し、さらにその答えの合計を出すというもので、合計のあつた選手に早いほうから順に得点が与えられる。この第二回戦は見取算が指定され、岐阜県は全員不正解で〇点、静岡県は二人正解し一〇点、兵庫県は全員正解し、一五点で準決勝進出となった。兵庫県はそのまま勝ち進み、優勝を飾った。

すべての競技が終了し、閉会式の前の一〇〇位までの発表が大スクリーンで行われた。静岡県勢は、第三四位に西尾貞子選手、第七〇位に大杉麻実選手、第九三位に高梨和司選手と野末みらい選手、第九八位に齋藤達彦選手が入賞し、